

第1部 「宇大生×Educare生徒 日伯ユースサミット 2013～国際化する日本の光と影～」

宇都宮大学国際学部3年

村 里 杏 子

外国につながる子どもフォーラムに、大学生が関わるのも今年で三回目となりました。昨年のフォーラムは、私自身がフォーラムの準備にあまり関わっていなかったため、今回、中心となってフォーラムの準備を進めていくことに不安を感じていました。本年度の活動として、外国人児童生徒と大学生の交流事業として8月29日、30日にサマーキャンプを行いました。サマーキャンプは、本年度初の事業でもあったので、第一部ではサマーキャンプの活動報告と、サマーキャンプに参加してくださった茨城県つくば市にある Instituto Educare（エドゥカレ）の生徒の皆さんと宇都宮大学の学生によるディスカッションをすることになりました。Educareの生徒の皆さんと関わるのは、今回の外国につながる子どもフォーラムを含めると、三回目になります。たった一度のサマーキャンプの交流だけで終わらせるのではなく、二度、三度と交流を重ねていくことも今回のフォーラムの目的の一つでした。

第一部の前半は、サマーキャンプの活動報告を行いました。西明寺見学や陶芸体験でEducareの子どもたちに日本文化を知ってもらったり、レクリエーションやディスカッションをとおして、言葉が通じない環境でもお互いの気持ちをできる限り伝えあったりした様子を写真で紹介しました。サマーキャンプ活動報告の作成中、Educareの子どもたちのはじけるような笑顔の写真がたくさんあることに気づき、来年以降もサマーキャンプを続けていきたいと強く感じました。フォーラムに来てくださった皆様にもEducareの子どもたちの存在を知っていただくきっかけになったのではないかと思います。



第一部の後半では、外国にルーツを持ち、現在は宇都宮大学に所属している学生5名と、Educareの中・高生8名によるディスカッションをしました。ディスカッションのテーマは、「将来の夢」とし、各々の夢について語ってもらいました。Educareの子どもたちは、漫画家になりたい、歌手になりたい、パティシエになりたい...といったように、日本人の子どもと同じように素敵な夢を持っていました。夢が見つからないと発言した子も、「将来の夢はまだないけど、やりたいことはある。世界一周をしたいんだ」と、凛とした表情で答えていました。しかし、素敵な夢をそれぞれが持っている中で、夢を思い通りにかなえられない現状もあります。外国人児童生徒は、経済的理由、日本と祖国を行き来するなどの家庭的事情、いじめや日本語ができないことで日本の学校に進学する難しさ、によって、日本人の子どもに比べると、夢を持ち続けるに難しいといえます。実際に、ディスカッションの中でも、自分の夢をかなえることよりも家族と一緒に暮らしたいという子どももいました。外国にルーツのある宇都宮大学の学生には、将来に不安を抱えるEducareの子どもたちへのアドバイスやメッセージを語ってもらいま

した。自文化を二つ持つことは素晴らしいこと、自分の Home (居場所)を見つけることの大切さ、必ず誰かが助けてくれるということを忘れないでほしいことなど、外国にルーツを持つ葛藤を経験した彼らの言葉は、非常に印象深いものでした。

今回のフォーラムで、初めてブラジル人学校に通う子どもたちの様子を知った方もたくさんいらっしゃると思います。外国人児童生徒問題

に対して私たち学生にできることは、微々たるものですが、今回のフォーラムで、外国人児童生徒の存在について少しでも広まることを願っています。また、今後も外国人児童生徒の声に耳を傾け続け、HANDS Jr. 一丸となって外国人児童生徒支援に関わっていこうと思っています。

最後になりましたが、HANDS Jr. のメンバー、大学の先生方、フォーラムに来てくださった皆様など、多くの方々に感謝いたします。

《 学生実行委員 》

鄭 思宇 (国際学部大学院2年)

王 舫璐 (国際学部大学院1年)

安 秋爽 (国際学部大学院1年)

コハツ ホセ (国際学部4年)

岩村 恵 (国際学部4年)

曾 徳機 (国際学部4年)

加藤 ジョランダ (国際学部4年)

叶 金栄 (国際学部4年)

竹元 志穂 (国際学部4年)

堀部 聖人 (国際学部3年)

村里 杏子 (国際学部3年)

城田 美好 (国際学部3年)

荒井 絵理菜 (国際学部2年)

佐藤 乃巴桂 (国際学部2年)

丹治 真奈 (国際学部2年)

佐々木 ひとみ (国際学部2年)

大和 優希 (国際学部2年)

遠藤 さくら (国際学部1年)

オルティス ゆみこ (国際学部1年)

坂本 有悠美 (国際学部1年)

桑田 梢 (国際学部1年)

齋藤 柊奈 (国際学部1年)

高橋 はるか (国際学部1年)

持丸 英理佳 (国際学部1年)

第2部「特別の教育課程による日本語指導の開始に向けて」

～文部科学省初等中等教育局国際教育課課長補佐 河村裕美様からの説明(一部抜粋)～

みなさん、こんにちは。本日は、来年4月から始まる予定の特別の教育課程による日本語指導について背景やその内容について説明します。

まず、背景について、2つの側面からみていきましょう。

1つ目は、日本語指導が必要な外国人児童生徒の数です。小・中・高等学校において、平成24年度の時点で、27,013 人在籍しています。その数は、平成20年度をピークに若干微減していますが、全国的な統計をみると、いわゆる集住都市といわれているところから、全国まんべんなく散在しているという状況に移りつつあります。



次に、日本語指導が必要な日本国籍の子ども数です。右肩上がりでどんどん増えています。